

●教育アドバイザー：「良質の算数文章問題」を通して見えることアドバイスできること
※数ヶ月たちましたので、子供達は変化しています。下記は変化前の現状です。

■CASE001■

＞小学生よりひらがなを書き始める。周りのことが気になってしまうことが多く、気がちりやすいようです。

→気にならない環境作りが必要。

＞体もよくうごきます。

→気にしない。

＞家では家庭学習に取りかかるまで時間がかかります。

→結構です。納得してからとりかかる事が大事です。時間が足りなければ学習の方を減らすべきです。

→全くやっていない（OK）

→やっていないのに急かされている？

→待っている状態の親でありながら急かすような雰囲気で見ている？

○例えば、「見ている」でも「（嫌だなと思いながら）見ている」場合と「（楽しそうだなと思いながら）見ている」場合では、全く違いますね。前者は突き放しています（勝手にさせてはいるがキチンと甘えさせてはいない）し、後者はキチンと甘えさせていますね。

＞落ち着きがない。

→そこは注意しない。

○お母さんが遊びに加わる事でテンポをゆっくりにもっていけるといいですね。

○パターンに反応しやすいので動きも含めてパターン学習は極力避ける。

パターンを直ぐにコピーしようとする癖がある。

→興味がないものの処理は何も考えずにパターン処理の方法を聞いたがる。

→パターンではできないことに限定する。

○命令も出さない。

○絵図を「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」描く事で修正可能。

○正しい視覚イメージの再現はできる。ただし、細かいところが粗野になり混乱の元になっている。

→丁寧に取り組める環境が必要。

○視覚イメージの安定化は出来る。

→考えられる。

→穏やかに過ごす環境が必要。

※急がない事が最重要課題。

○甘え不足。

→「疲れ気味」の時は、何も言わずにゆっくりゆったり過ごす。

※能力的には全く問題ない。

しかし、環境慌ただしいのと甘え不足で不安定な動きを誘発し能力を発揮できないでいる。
※動きは深く考えられるようになると丁寧になり落ち着いてくるので、動きだけを注意したり強制したりする必要はないし、無駄である。

※ほんの少しのサインしか出さないのによくよく彼の声を聞いていないといけませんね。確認すると2回目は嫌になるようなので最初の一言を聞き逃さないようにしてください。確認も良くないですね。確認というといいように聞こえますが「僕の話聞いていなかった」と思われる場合が多いんです。前回の問題忘れの件も先生の部屋にいた時から分かっていたと思いますよ。

■CASE002■

○全く問題はありません。このまま楽しく健全な学習を続けましょう。

■CASE003■

＞思考が止まっている？

→止まっています。考えるところまで行っていません。

→2Mの後半～3Mを中心にやりながら待つ。

○テンポがズレている言葉かけ（親は普通だと思っているが子供には速いと感じるテンポ）や、親の常識では一般的な礼儀・躰の範囲だから注意すべきだと思って言っている命令口調の言葉かけ（子供にとってはどちらも自分を攻撃する言葉）から自分を守るために、固いシールド（防護壁）を作っている状態。そして、そのシールドがあるために、母親以外からの入力も自分自身からの出力も妨げているので、能力はあるのに、最低限の表面的な反応しかできずに固まっている状態。継続すると習慣となり吸収できる（思考力養成）期間を過ぎてしまう。シールドを柔らかくすること（薄くすること・低くすること）で、入力も出力もできるようになる。本来の頭が動き出す。「礼儀」「躰」の言葉であっても、子供が余裕を持って受け入れられるテンポを守り、決して命令口調にならないことがシールドを柔らかくする唯一の方法。

→Silent&Quiet-Life

→2週間、どんなことも絶対に命令しない。声かけはしても絶対に急かさない、楽しく待つ。最終的にしなくても、絶対に怒らない。穏やかにお願いし、次はお願いしますね。で終わる。

※声掛けが「脅し」になっていると自分では決して考えるようにはなりませんから要注意です。

■CASE004■-1

○自分の感情を「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」味わう時間を過ごしてこなかったのが、感情をベースとする、本来なら楽しさを伴う学習への反応が薄いようです。

○処理をしようにも、処理をするための理解がゆっくりで理解した事しかコピーしようとはしないのに、テンポを急がされていたので、その肝心な理解を経過せずにコピーだけをしようとするので、ありえないポカミスに見える事をする。これは、集中力以前の問題で、本来持っている吸収力を使えるテンポでの生活をしていないので、入力も出力も上滑りしている現象。

→現在やっている事を早急に総点検して、生活自体を修正しないと年齢的に難しい。

■CASE004■-2

○自分の感情を「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」味わう時間を過ごしてこなかったのが、感情をベースとする、本来なら楽しさを伴う学習への反応が薄いようです。

＞学習意欲が乏しい、諦めが早い、集中力をつけてほしい。

→命令口調と急がせる事は厳禁

→ノーヒントで完全に自力で出来るまで進化はない。

※考えない学習と真似をする（言われた事だけをする）週間が付いている。

→自力で考えた事がないので未知のものに対する場合の（あるべき根拠のない）自信がない。何をしたいのかすべきなのかを考える余地を与えてもらえずにここまで来てしまった結果のように見える。

■CASE005■

○順調です。彼の繊細さをどこまで守り、社会や周りの人たちと、どうバランスをとっていくかを探りながら育てていきましょう。

■CASE006■

○描けるけど見ない癖。

→動かさない＝考えられない

→3MX-5MXを「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」お願いします。

○視覚イメージの再現は安定しているので、「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」視覚イメージを動かすための環境設定をしましょう。生活全般を急がない生活にし、不要な「考えない学習」を排除します。女の子の場合は小5が最後の修正時期となります。

※裏面を御覧下さい。習い事による、コピー学習の影響はあるかもしれませんがね。完璧主義だと往々にして陥りやすい落とし穴です。

■CASE007■

>他人に質問するという事に抵抗があるようです。学校の先生にもなかなか質問をする事ができません。いずれ親には教える事が出来なくなる時期が来ると思うので、その点を心配しております。

→その為に「分からん帳」があります。ですが、基本的には小学生時代に質問する子は稀です。全く心配ありません。「分からん帳」ができてさえいればどうにでもなります。

■CASE008■

>1年生の時からどんぐり問題を時々しています。学校の成績は、とても良く、失敗や間違いをととても嫌います。

→学校の授業は楽勝だと思います。が、楽勝であるがゆえに処理になっていますね。

※理論の方が優先してしまい、楽しさが追いつきませんでしたね。悪くはありませんが、もったいないです。

>学校に行き出すとイライラします。

→無駄な事をさせられている事と、自分のペースより遅い事が原因ではないでしょうか。

→これは、修正できませんので、学校以外で本人の望む事をサポートすべきですね。

>3年生の時に宿題の量を本人に合わせてすることを学校にお願いしていますが、学校と家庭との板挟みとなり本人が苦しそうにしている時があります。

→無駄な苦勞なので、どうするか本人に決めさせ、親が支援する形にしましょう。

>頭の回転がいいのですが、もっと楽しめるように親子で先生の元で学べることを希望します。

→本来のテンポも速く処理能力も高いですね。それだけに、大人（周り）が求める事を確実に把

握して、余力でそれに見合う形での反応をします。例えば、どんぐり問題でさえも、楽しげな絵図を描いて期待に会うようにします、が、実は処理をしているだけです。このままでは、パターン学習となる可能性が大きいです。しかしながら、年齢的には既に大人と同じ思考が出来ますので、修正は利かないでしょう。20才前後で自分が本当にしたい事を模索するようになってから次の楽しむ段階に行く事が出来るチャンスが来るでしょう。しかし、これも、器用さで「できる」ようになってしまうと、本来の楽しみは見過ごされる危険もあります。「できてもしないことが大事で、楽しむ事が人生である」ことを親が手本を見せ続けるしかないと思います。

※既に2面性を持ち、自在にその2面性を操れる自我もありますので、自分で課題を見つけ自力で納得する形で解決しながら、成長していくようです。親が出来る事は応援する事だけでしょう。
※自己基準を明確に持っている親である姿を見せる事が最大の教育になると思います。

■CASE009■

○ゆっくりで、感覚的なところは長所ですが、将来バランスをとれるように、今、論理的な事がある程度詰めて考えられるようにしたいところですね。そこで、問題は4MX-5MXだけがいいでしょう。

■CASE010■

○高度に視覚イメージを安定させる事が出来る。それなのに、急いでしまう。Why?
→生活リズムが忙しいので能力を発揮できずに育ってしまう危険性がある。
「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」生活する事が唯一学力を伸ばす道。

>正解にたどりつくのは50%です。

→急ぐからです。

■CASE011■

>集中力がないような気がします

○「ゆっくり」考えていくタイプなので、少しでも急かせると進化を拒否する。余計な学習をさせると、従うが嫌々なので応用力は育たない。

○お母さんが肩の力を抜いて、ゆったりモードで仲良く過ごすとうちも伸びます。

■CASE012■

○本来、ゆっくりのテンポのようですが、生活自体が速くなり、せっかくの力が浪費されてしまい、学力に繋がっていません。

表面的なパターン学習程度であればコピー学習についていけますが、楽しく学習する事は出来ません。

5MXを中心に腰を据えて、単純な反復を徹底的に避け、「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」問題に取り組む習慣を今のうちにつけるべきです。

中学までに「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」学習する習慣が出来なければ、そこからは、パターン学習の繰り返しをするしかなくなるでしょう。

○単純作業的学習の弊害が顕著に見て取れる。典型的な反射学習の悪影響を反映している。高学年なので危険なところだが、よく見ると、その悪影響は勉強モードの時に顕著に現れ、遊びモードの時にはそれ程強くは出ていないので修正は可能と思われる。ただし、高学年なので、偶然に遊びの中で養った思考回路に頼る部分が多いと思われる。つまり、少なからず思考力は遊びの中で偶然にも作られているが、学習という名の「考えない習慣（反射学習）」を身につけてしまっ

たがために、思考回路を学習に生かせないでいる状態である。

→遊びと学習を区別しないで楽しめるような環境設定が必要である。今までの学習方法を全て修正していくこと、「間違っていた」と謝り、ハッキリ本人と話をすることが一番の近道となる。高学年なので、これまでの学習の悪影響、今後の課題、新しい学習方法の意味をキチンと話し合うことが肝要である。

※親は最初に謝る必要があるだろう。

※「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」生活すべきときに習い事で貴重な時間を潰してしまいました。

■CASE013■

○気づかないで描き進めてしまう。原因は気が急いでいるから。見かけはユックリしているときでも、頭の中では急いでいる。急かされる癖が抜けないので急いでしまう。まずは、味わう（ユックリする）というスタートラインに立つことが大事。スタートしなければ全てが空回りとなる。形だけ（見かけのユックリ）ではだめ。

→頭の中でユックリできるようにする。すると、見えてくる。気づくようになる。ユックリできるようにならないと、いつまでも単なる反射しかできなくなる。学習もパターン学習というコピー学習しかできなくなるので応用力は生まれてこない。

→お母さんは、自分に関することはテキパキとして結構ですが、子供に関することはダラリとするのがポイント。

ここが、意外に難しいところなので意識してダラリとしてみましょう。

→一行10分お絵描きをやってみるのもいい。一題40分くらいかけてすることになる。

→親はストレスが溜まりますが、意識的に言葉そのものを、ゆっくりと話すようにすると、子供のペースが遅くなります。子供に対する親の反応も鈍く反応することも重要です。「はい！」ではなく「は〜い？」くらいのつもりが丁度いい。これは、日常生活でも同じ。子供といるときには、自分でも信じられないくらいにダラリと対応する。シャキシャキは子供のいないときだけ。

→「良質の算数文章問題」に関しては、5分でも10分でもいいので、とにかく、丁寧に描ける時間を作っていくようにすること。

→お母さんの言葉の速さと、語感に反応して急かされているばあ下ありますので注意して声かけしてみてください。

※家庭での日常の自分の声を録音して聞いてみると自分でも分かります。自分の声質や語気は、録音しないと、なかなか分かりません。また、お母さん自身が急いでいるのが一番影響を与えやすいことがありますので、諦めて（覚悟を決めて）ゆっくり過ごすように努めて下さい。

>親の私がイライラしてしまったり待てなかったり、ついヒントを口走ったりしていました。

→原因は分かっているのですから、子どもの前だけでも「ダラ〜っ」としましょう。背筋を伸ばしてはいけません。

※上記の事をするのに宿題が少しでも障害になる場合は工夫をして下さい。

■CASE014■

○語彙量を心配されていますが、そのことによる過剰防衛が悪影響を及ぼしています。今の日本語で十分です。生活の中で修正はしていくものです。でなければ、物知りお馬鹿さんになってしまいます。

○言葉を教え込まない事が大事。感情育成を阻害する事になります。特に漢字は、研究するのなら別ですが、今の時期の入力は、ガラスの自信を付けてしまい勘違い学習の始まりとなりますので非常に危険です。

○吸収力を知識や他人の思考のコピーに使わずに、深く潜行し、自力で工夫する環境を作る事が課題となりますね。

○速さではなく、量が問題。大量の入力は速さと同様に思考力養成の邪魔をします。

○知識が思考回路養成の邪魔をする事に気付かないと、時間とお金を浪費し、子どもの才能を枯渇させます。つけてはいけない力をつけて、持てはいけないガラスの自信をつけてしまいます。

○多量の知識入力が丁寧さを奪い、思考する余裕を喪失させている。

○理解力（視覚イメージ再現）で止まってしまい、思考力（視覚イメージ操作）まで辿り着けない危険性があります。

■CASE015■

○とてもいい感じ。今後も、自分のペースを崩さずに 学習も日常生活もマイペースで進める。

>夏休みなど、長期の休みでのんびりしている時は調子が良いのですが学校帰りの放課後になると、明らかに考えるのを面倒くさがります。3年生の問題にはまだ歯が立ちません。最近特に「わからん」行きが続出で、年長さんや1年生問題に戻っています。解き方が二層以上になっていると、もうお手上げというかんじでなかなかオリジナルな工夫がみられません。時々「これはかけ算？足し算？」と性急に解き方を知ろうともします。一人でやると絵もかなりはしょってしまうのでできるだけ、母の私も一緒に別の問題をやることにはしているのですがつつい解き方を教えてしまいこれじゃいかんよね…とっていました。

→丁度1年ズレていると考えて下さい。いたって、健全な成長をしています。「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」十分に、具象思考を楽しむ事が、伸びる秘訣です。でもヒントや口出しはいけません。

■CASE016■

○親子関係はいいので環境を丁寧に設定し直す。特にゲームは、あの手この手で物理的にさせないようにする。ゲームが抜けない限り改善はない。

○TVゲームが基本回路を侵食し、異常回路を固定しようとしている。目が死んでいる時がある。間があると「つまんなーい」という。自然の時間の流れを楽しめない。耐えられない。作られた時間の流れが基本回路になっている。

→緊急対応が必要である。TVゲーム厳禁。低学年なので非常に危険。

■CASE017■

○お姉ちゃんと同様に、「天然賢い」のですが、思考力養成には繋がらない学習習慣になっている。

○遊びの中で思考力を育てる本来の正常なタイプ。しかしながら、現代の生活環境ではその思考力養成となる自然の中での十分な遊びそのものが不足しているので、机上での思考力養成（どんぐり問題）が必要である。ただし、健全性の面から言うと、外遊びが最も良質な思考力養成となるので、できるだけ、時間を作って外遊びをさせることが望ましい。この時間は「考えない学習」を削って作ることが肝要である。平行して、考える学習を少しだけ取り入れることがポイントとなる。両方あることで「考えること」を生活の中でも机上でもできるようになる。

※スポーツが好きであれば、複雑な動きを要求されるスポーツも学力養成になる。無駄なストレスがかからない

スポーツに取り組める場合は考えてもいい。

→単純作業的学習を排除して遊び（外遊び）の時間とする。

○不要な計算練習が考える事を停止させている。文中の数字に引かれて文の意味を理解する（絵図化する）ことが疎かになっている。能力がなくて出来ないわけではない。面倒な事は考えないという悪い癖が育っているので、「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」少量の学習（ただし単純作業的な宿題等ではなく「良質の算数文章問題」）を
することだけに特化して考える習慣を付ける生活に移行すべきです。

■CASE017■-2

○弟くん同様に、「天然賢い」のですが、思考力養成には繋がらない学習習慣になっている。
○向上心もあり、洞察力もあるのだが、その力を残念な事にコピー学習に使ってしまっているの
で、教えてもらった問題しか解けない応用の利かない学習になっている。
○5MXだけに絞って、「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」自力で回路を作る事が大事。もちろん、
他の考えない学習は極力避ける。女の子は小5の1年間で最後の修正期間となる。
○向上心と本当の学力にギャップがあるために、力が及ばない問題に手を出す。学校でのコピー
学習を学力と勘違いしている。解けなかったらヒントを貰って、コピー学習をするようになって
しまっている。このままでは、伸びない。
○飲み込みが速いので、学力があると思われる場合が多く、その分、気付くのが遅くなりがち。
この飲み込みの速さは「コピー」するだけなので学力とは無関係。学力がなくても、手順をまね
る事で出来てしまうので、周りも勘違いしてしまう。このコピー能力は、決して悪い力ではない
が、思考力養成時期の学習で使ってはいけない。せっかく能力があるのに、「出来る」を求めて
学力養成が疎かになっている非常にもったいないケース。

■CASE018■

>ひらがながやっとな読める、書けないひらがながある。
→文字を媒介としての読み書きではなく、話し言葉で成長させること。

>数字には少し興味があるようだが、書けない数字がある。
→いたずらに興味も持たせない事。

>絵や図形を描くのが苦手。
→苦手で結構ですので、嫌にならない様な環境設定にする。

>IQテストをした結果、低めの数値が出ました。
→数値は無関係。

>4月から小学校に入学するにあたり、大丈夫かと心配です。
→学校のテンポには全く合いません。また、学校の評価対象の読み書きにも合いません。しかし、
成長は可能です。

>このような状況を考え、この子にはゆっくりとしたペースで、考えるということに重点を置い
た学習方法が良いのではと思います。
→それしかありません。

○筆圧が弱いので書かせない方がいい。大きく腕で描くようにアドバイスはOK。ただし、「させ
る」ことのないように注意。

<対処方法>

言葉でゆっくり複雑イメージを再現・操作できるようにする。無理に紙の上の絵図を使わせる必要はない。紙に描かなくても絵図は頭の中でも描ける。詳細で明確な絵図にはならないが、意識して再現することで学力養成は可能。

本人のペースを大事にする。お母さんでないと緊張するので入出力をなるべくお母さん経由で続ける。言葉&視覚イメージの基礎回路ができるまでは、最もストレスの少ないお母さん経由であることが望ましい。それらの中で、本人がストレスを感じない程度に紙の上に絵図化する練習は心がけることが大事。莫大な視覚イメージ再現エネルギーを持っているわけではないので、複雑になると混乱するのは当然なので、思考内容が簡単なうちに絵図化する習慣を育てたい。

言葉は達人なので、その力を利用して学力養成をすることが肝心。

※学校では、読み書きによる評価が中心になるので、つつい読み書きでの評価にあわせようとするが、彼の場合にはストレスを与え吸収力も表現力も奪うことになるので、極力さけることが必要となる。

■CASE019■

○遊びの代わりに習い事という場合は、全く異なる結果をもたらしますので要注意。

○内向的なところを逆に利用することが肝要。

>同世代と遊ぶ機会が少ない

→結構です。

>授業中：手を上げない、声が小さく細い

→全く問題ありません。内向して安定するタイプですから、外に向けさせる事でストレスをかけないようにすべきです。食事は自宅で美味しいものを楽しみましょう。

>仲良し

→不要です。

>プレイスクール

→自主的に遊んでいれば大丈夫ですが、遊ばされている場合には疲れが残るだけの場合もあります。息抜き程度なら良いでしょう。

>自分の思いを伝えられるように～

→これは、高校以上ですべき事です。今は自分を育てる時期ですので表現は極力させません。ただでさえエネルギーが少ないのですから不要な事は一切させない事が重要です。

>テレビは～

→1週間に2時間程度に出来ると良いですね。見るだけでもエネルギーを消費するからです。時間の編集が人為的にされているものはつかれるんです。

■CASE020■

○どんぐり問題はもっと「ゆっくり、ジックリ、丁寧に」少量にしましょう。多くていいことはありません。

○ゲームは反射学習と同様に幼児・児童期には非常に危険です。反射を鍛える事で思考力養成を

不可能にします。すると、目の前に書いてあるストーリー（文章）を追うことが出来なくなります。負うための忍耐力もなく、央楽しみも知らず、「つまんない」「わかんない」というだけで、気が散り、繊細で複雑な事の継続が出来なくなります。反射的で一時的で単純な事は出来ますが悪影響ばかりです。

※この状態でどんぐり問題をやっても効果は出ません。

マイナス学習があるとプラス学習をしてもマイナスになる事が殆どです。まずは、マイナス要因を取り除く事が先決です。リセット期間をキチンととって、マイナス学習をやめましょう。

※マイナス学習の代表例：高速（計算練習も含む）・反復（反射計ドリル）・大量（漢字暗記も含む）

○就学前の先取りが悪影響（ストーリーを楽しめない）の原因のようですね。

■CASE021■-1

○イメージが不安定。表層的な反射をしてしまう。反射的なことには気がつくが、感じる前に反応してしまう（ように、環境設定も含めて、育てられてしまった）ので本当の意味での注意力は散漫となり、自分の本当の感情が反応するまでジックリと対象を味わうことをしないようになっている。

プレースクールでの様子が気になります。一つの遊びを味わうような環境であればいいのですが、目先を変えるだけで工夫をしない環境であるならば、遊びという名前でも危険。目移りする動きはマイナス。視覚イメージが安定しなくなる。すると、考え続けることは難しい。視覚イメージをジックリ見ることが考えることの一歩だからである。

<対処方法>

学習はもちろんだが、日常生活においてユックリを心がけ、自分の感情を味わう必要がある。3歳～6歳で育てておくべき感情育成がなされていないが故に表層的な学習になっている。全てのことを反射ですませているので、複雑で繊細なことには対応できないと思われる。

- 1.余計なことは一切せずに何もしない時間を毎日作る
- 2.学習量を極端に減らして手間のかかる方法でゆっくり と時間をかける学習のみにする
- 3.「良質の算数文章問題」は小3を2年くらいかけて丁寧に取り組む。

※高学年（行動範囲が広く素早い）なので、難しいことだが、目移りしない（できない）環境を作る（与える）ことが大事。

※落ち着いて見る練習。一つのことを味わう練習。ここに学力が伸びる秘訣がある。

■CASE021■-2

○イメージが不安定。表層的な反射をしてしまう。エネルギーが流れ出しやすいので要注意。エネルギーを外部環境（特に人）に合わせるために消費してしまい自分を育てるためには使われていない。ゲームにもエネルギーを吸い取られている。

<対処方法>

一人遊び・一人学習が大切なので、その時間を確保する。極力、壁を作って（一人遊び・一人学習をしなければいけない環境づくりをして）エネルギーを流出を抑え自分を育てるために使うようにしむける。